

# 謹賀新年



# それいゆ 広報

Vol.112

## 医療法人同仁会

- 介護老人保健施設 それいゆ  
TEL0577-35-3030
- 桐生クリニック  
TEL0577-35-3880 FAX (共通) 0577-35-3063
- 折茂医院  
TEL0577-34-5025
- それいゆ訪問看護ステーション  
TEL0577-37-5260
- ヘルパーステーション それいゆ  
TEL0577-37-3360
- 病児保育室 プティそれいゆ  
TEL0577-35-2525
- ケアプランセンター それいゆ  
TEL0577-35-3770
- ショートステイ それいゆ  
TEL0577-35-0710
- シャロンド・それいゆ  
TEL0577-34-5026
- デイサービスセンター べれる  
TEL0577-36-7077
- Dr.Orishige ビオメゾン  
TEL0577-37-0800
- ヘルパーステーション レザミ  
TEL0577-37-0800
- デイサービスセンター れざみ  
TEL0577-37-5666

新年明けましておめでとございます。

昨年はアベノミクス効果で景気上昇の気配が感じられ長年続いたデフレからようやく脱却し始め、日本全体が何処ということなく楽観的な一年だったように思われます。今年は日本全体が、確実に景気上昇へと向かうであろうと心から期待しています。

現在日本の高齢化は進み、高齢化率は世界第一位であり、今後さらに進むと予想されています。このような状況の中で高齢者を含めた各世代の家族が安心して暮らしていくためには、どのような制度が必要であるのか、答えは出されていません。高齢者が自分の人生を全うするために必要なことは、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく、有機的にかつ一体的に供給される制度が必要です。

医療法人同仁会は昭和五十二年開設した折茂医院を核として介護老人保健施設、デイサービス、認知症デイサービス、訪問看護、訪問介護、ケアプランセンター、病児保育、ショートステイ、そして昨年より昭

## 新年を迎えて

医療法人同仁会

理事長

折茂 謙一



和町二丁目に小規模多機能施設、有料老人ホーム、リハビリジムを併設しました。病院からの退院を支援するためのリハビリ・療養をはじめ、注射点滴、経管栄養、気管吸引、創傷処置、疼痛管理、終末期まで包括することができるよう医療・看護・介護・福祉すべての視点から総合的に対応できる体制作りを目指しています。

現在医療体制の見直しが求められています。そのひとつに最期の療養や看取りの問題があります。介護する家族に負担がかかることや、症状が急変した時の対応に不安があるため、現在病院での看取りがほぼ八十パーセントとなっています。

二〇三〇年にはおよそ五十万人の最期の療養の場の確保が、必要だと予測されています。病院からの受け皿として、さらに最期の療養・看取りの役割を幾分でも果たすことができるよう、努力していくつもりです。高齢社会を支える役割の一端を担うことができるよう頑張ります。

よろしくご指導、ご協力をお願いいたします。

# 第二十四回全国介護老人保健施設大会石川in金沢

平成二十五年七月二十四日(水)～二十六日(金)

看護介護部二階 介護福祉士 上坪 真也

第二十四回全国介護老人保健施設大会石川は平成二十五年七月二十四日(水)～二十六日(金)の三日間にわたり金沢駅を周辺に開催されました。大会のテーマは「つづくしき川は流れたり、そのほとりでは我は住みぬー住み慣れた地域で、そのひとらしくー」でした。私自身、初めての全国大会の参加という事で、とても緊張しながら参加をさせて頂きました。とても多くの研究発表が二十三会場に分かれ、医師、看護師、介護福祉士、リハビリ、管理栄養士、相談員、事務、福祉用具などの多くの職種の方々が施設等に関しての発表を行いました。参加された施設の中で、北は北海道、南は沖縄と各地からたくさんの方々が集まり、会場はとても盛り上がりを感じました。また、岐阜県から座長として四名出席しましたが、その中で当施設からは中屋相談員が指名を受け座長を務めました。

研究発表では、『認知症へのレクリエーションの効果について』を演題に上げ、日々のレクリエーションで何気なく歌っている歌や、過去の思い出を語り合うことは、どのような効果・影響を与えているのかについて取り組んだ内容を発表しました。他施設の発表では、リハビリ、食事、職員の職場環境などについて様々な発表があり、各施設の意欲的な取り組みを強く感じました。

近年、高齢者人口は増加の一途をたどっています。高齢化社会になるにつれ、認知症を発症される方々も少な

くはありません。当施設でも、認知症の方が数多くみえ日々の暮らしの中で不安感を訴えられる方もみえます。この度のテーマである「住み慣れた地域で、その人らしく」のとおり、施設での限られた環境の中で、その人らしい生活を送って頂く為に、日々の暮らしの中で利用者様一人ひとりの関わり合いを持ち、少しでも安心した気持ちで生活して頂けるよう心掛けていくことを改めて認識しました。



発表者 上坪介護福祉士(左二人目)、座長を務めた中屋相談員(右端)、他左から櫻井、富田、植田各介護福祉士

## 勤続十年表彰

昨年末で勤続十年を迎えた職員六名の特別表彰が、十二月十九日ひだホテルプラザにて行われ、理事長より感謝状と記念品目録が贈呈されました。

・介護老人保健施設それいゆ 相談室 支援相談員

石井 雅代

・介護老人保健施設それいゆ リハビリ室 主任理学療法士

宇田 輝彦

・介護老人保健施設それいゆ 看護介護部三階 介護主任

荒井 千浪

・介護老人保健施設それいゆ 看護介護部二階 介護主任

高ノ山 優子

・折茂医院 准看護師

岡田 美千代

・折茂医院 事務職

横山 比呂美





## 第二十八回 岐阜県老健大会

平成二十五年十月二十日(日)  
羽島市文化センター

看護介護部 三階

介護福祉士 塩谷 友希子

平成二十五年十月二十日に羽島市文化センターで開催された「第二十八回 岐阜県老健大会」に参加しました。岐阜県内の各施設から三十六題の発表がありました。

私達は、「自分でご飯が食べたい」「食事摂取から自力摂取への援助」という題で全介助状態の利用者様の食事摂取方法に注目し、残存機能を生かし在宅生活に繋がる自立支援を目標に取り組んだ内容を発表していただきました。ここに報告させていただきます。

対象利用者様は、発熱・重度の唇の荒れがあり、また食事摂取量が少ないなどの症状が重なって入所されました。

私達は、まず一番に何をケアしていくかを考え、①唇の荒れの治癒、②食事摂取量の安定の二項目を目標にケアを開始しました。ご家族様の協力の元、はちみつクリームなどを使い唇の荒れは治癒し、それに伴い食事摂取量も増え発熱状態も落ち着

きました。表情も豊かになり発語も聞かれ身体状態の安定により、ベッド上の生活から車椅子に座れるまでになりました。また、リハビリと併用し利用者様の残存機能を活かし食事の自力摂取に向けて多職種と共にカンファレンスで意見交換をしグリップの使用やスプーンの形の工夫などを試した結果、自力摂取が可能となりました。

ご家族様の面会時には、「コミュニケーションを図るよう心掛け日頃の様子を伝え自力摂取される姿を見て喜ばれていました。

現在は、入退所を繰り返してみえ在宅生活の中で継続していく事は難しいのが現状です。

しかし、利用者様の持っている力を活かせるよう生活の中で喜びが持てるよう、ご家族様・多職種・他事業所との連携を密に図り今後も様々なケアに取り組んでいきたいと思えます。



通所リハビリ

介護福祉士 根津谷 公介

今回、老健大会では、『居心地の良いデイケアを目指して』個々に合った時間の過ごし方」というテーマで発表しました。それいゆ通所リハビリでは、リハビリ、入浴、送迎などの待ち時間に個人の活動として、パズルやぬり絵などの活動する時間があります。しかし、マンネリ化し取り組まれる方が限られています。中には、何をしたいかわからず不安になり、落ち着かない方もいます。そのような方々に焦点をあて、まず生活歴（人格・趣味・特技・職歴等）の情報収集を行いました。情報を元にスタッフで話し合い、個々にあった作業や対応方法を提案し提供してみました。日々の中で気付いた事などをノートに記録してミーティングで情報交換を行い思考錯誤しました。

この取り組みを通じて、利用者様の様々な表情の変化や自己主張がみられました。帰宅願望や入浴拒否が

ある方は、興味がある作業に取り組む、集中する事で不安要素が消え否定的な言動が少なくなりました。意欲や表情の乏しい方は、決まったスタッフからの声かけだけでなく、全スタッフからの声かけが気持ちに影響したのではないかと考えられました。

この取り組みをした事により、スタッフ一人ひとりが、個々を知ろうと意識してコミュニケーションをとる事ができ、スタッフの観察力向上に繋がったのではないかと思います。スタッフからの活動内容の選択肢を広げる働きかけは大切ですが、個々によって気持ち良いと感じる過ごし方はさまざまです。

今後、多くの利用者様にとって生きがいや達成感など感じてもらえるように、利用者様一人ひとりに対してアプローチしていく内容を職員間で共有し、共に居心地のよい時間を作っていきたいと思いました。



例事だ組に制作芝紙

## 大正琴

11月12日「菊八重会」の皆さんが来所され、大正琴の演奏会がありました。風情ある音色にどこか懐かしさを感じました。ありがとうございました。



10月に3日間それいゆのお風呂はりんご風呂になりました。りんごの香りが漂ういつもと違ったお風呂に利用者様の笑顔がみられました。

## 生時記



## それいゆ文化祭

11月21日にそれいゆ文化祭が開催され、各フロアで作った作品の紹介や歌の発表会がありました。また相談コーナーには書道教室・押し花絵教室の作品展示がされており、今年も力作が数多く並んでいました。



## 餅つき大会

12月26日に餅つき大会がありました。利用者さんみなでおもちをつき、その後は各フロアごとに花餅の飾りを作りました。





# ケアプランセンターそれいゆ

管理者 寺田 歩美



この度、ケアプランセンターそれいゆ管理者を拝命しました寺田歩美です。これまで、十六年間介護の仕事に携わり、ケアプランセンターそれいゆでケアマネとして六年目を迎えます。

ケアマネとは『要支援・要介護認定を受けた人からの相談を受け、居宅介護計画書（ケアプラン）を作成し、他の介護サービス事業者との連絡・調整を取りまとめる者』となっています。

実際の介護支援サービスではさまざまな知識や情報が必要とされます。

年金や社会保障・医療や家事全般に至るまで、何を聞かれてもすぐに即答できるスペシャリストになりたいと思っても、一人の力では限界があります。その都度、包括支援センター・社会福祉協議会・病院関係者・他事業者など、多くの関係者や仲間に参加して頂いています。いつも本当に感謝し、頼りにしています。

介護サービスは複数の専門職がチームとなってサービスを提供していきます。同じ思いを共有し、関係性を大切に心の通ったケアチームを作り上げていく事が一番の要です。

今後ともケアプランセンターそれいゆ一丸となり、知識や経験を積んで理事長が掲げる『プロとしての技術の向上を図り誠意を尽くすこと』をモットーとして尽力していきたいと思っています。

皆様におかれましては、今までと変わらず、ご支援をたまりませんようお願い申し上げます。



# 通所リハビリテーション

介護長 柚原 一仁

本年も昨年同様ご愛顧いただきますよう、お願いいたします。

昨年は、十月に通所リハビリ実践報告会を開かせていただき、多数のご家族様に参加していただきました。連絡が遅れたことや、曜日が合わなかったりで、目的の一つであったケアマネージャー様のご出席が思うようにいただけなかったことが残念でした。

報告内容は以下のとおりです。

- ①姿勢の及ぼす影響と  
パワーリハビリの効果について  
宇田主任理学療法士
- ②通所リハビリでの訪問評価と  
リハビリプログラムへの対応  
住田理学療法士
- ③通所リハビリでの認知症短期集中  
リハビリにおける内容と取り組み  
五十川作業療法士
- ④居心地の良いデイケアを目指して  
根津谷介護福祉士

日頃個別リハビリ、パワーリハビリ、認知症リハビリなど、介護保険上使われる言葉が具体的にどんな事をやっているか、どんな効果があがっているのかを、実例のスライドを見ながら報告させていただきました。ご家族の方からは、「直接リハビリの先生から、自分の母がどんなことに気を付けて、どんなリハビリをしているのか聞くことができ、自分でもパワーリハビリを体験してみても良かった。」

「パワーリハビリを一通り体験して、これからは具体的にリハビリに意見を伝えたり、要望に反映していけるのではないかと考えた。」  
「家庭の中で、話をとってしまうのではなく、しっかりと話してもらおうようにしようと思った。」

などの意見や質問をいただきました。今年も実践報告会を開催予定です。たくさんの方々の参加をお待ちしております。また、利用されてなくてもリハビリに興味のある方がみえましたら、是非ご相談下さい。



パワーリハビリを体験

# シヨートステイ それいゆ

管理者 長瀬 千春

新年明けましておめでとうございます。  
日頃はシヨートステイそれいゆをご利用いただきありがとうございます。

さて、昨年はシヨートステイで行える機能回復訓練に力を入れてまいりました。理由は事業所内での全ての活動が機能訓練の為のリハビリテーション効果を期待したものであるべきでしたが、必要以上に手を貸し過ぎてしまい「シヨートから帰ってくる」と動きが悪くなっている。というご意見をご家族様から頂いたからです。『ご要望には迅速に対応』を心がけ、ご自宅での生活が長続きできるよう、介護する者の視点からご利用者様の目に見えない潜在的な希望されている事や能力を捉え、その人の生活を満たすことができるよう対応していきたいと思っております。

これからノロウイルスやインフルエンザの流行る季節です。免疫力の弱いご利用者様への感染拡大を防ぐために予防に努めると共に、自分自身が感染源にならないよう各自健康管理にも留意していく所存です。

ご利用者様、ご家族様がホッと一息できるシヨートステイそれいゆになれるよう取り組んでいきます。本年もよろしくお願致します。



# それいゆ 訪問看護ステーション

訪問看護師 山口 恵佐美

それいゆ訪問看護ステーションは「住み慣れた我が家で暮らしたい」という利用者様の意思を尊重し、安心して安全に尊厳をもって療養生活を送ることができるよう支援させていただく事を基本理念としています。

先日、利用者様から「こんな身体になってしまった、ずーっと天井を見て、今さっきまで泣いていたけど、あなたと話していたら元気が出て頑張ろうと思ったの。ありがとう」と暖かい言葉をいただき、体の底から力が湧いてきました。

病気や障害を持って自宅で過ごす中、不安や心配も多いと思いますが、利用者様、ご家族様の気持ちを大切に寄り添いながらどうすればよいのか共に考え、少しでもホッとできたり笑顔が増えたり安心できる存在でいられたらと思っています。また、頑張ってみえる利用者様、ご家族様の姿が私達スタッフのエネルギーになっています。

これからも安心してご自宅で過ごして頂けるよう訪問看護・リハビリスタッフ一同笑顔と感謝の気持ちを忘れず邁進していきたいと思っております。今年もよろしくお願致します。

## 新しいメンバーが増えました

十一月より、訪問看護に携わらせて頂いています。不慣れな事が多い中、初めての高山の地で出会った利用者様、ご家族様、スタッフ・地域の皆様の優しさに、日々感謝しています。少しでも皆様の力になれるよう、まだまだ未熟ではありますが頑張りたいと思います。よろしくお願致します。

水上玲奈（左一人目）



# ヘルパーステーション それいゆ

管理者 大洞 里奈

新年明けましておめでとうございます。  
日頃よりご利用頂き誠にありがとうございます。  
スタッフ一同より御礼申し上げます。

現在ヘルパーステーションそれいゆは、正社員四名、登録ヘルパー四名で訪問しています。私たちは「在宅で生活したい」「在宅で生活させたい」と願う利用者様やご家族様の思いを大切に、在宅で暮らしにあたり、必要となるケアを行います。

在宅の中には、一人ひとりの今まで積み重ねてこられた思いやこだわりがあり、支障があるからと簡単に変えられることではないと思います。そのこだわりを崩すことのないよう、今後も利用者様、ご家族様と一緒に在宅生活を安心して快適に過ごしていきたいと思っております。

今年も利用者様には、ケアをする中でご迷惑をかける事や不快な感情を抱かせてしまう事があるかもしれませんが、この関わりと絆を大切に、これからも日々精進してまいります。今年度もどうぞよろしくお願致します。





## シャロン・ド・

## それいゆ

管理者 牧田 功

『平成二十五年三月一日、シャロン・ド・それいゆが誕生しました。』というだけでなく高山市に小規模多機能型居宅介護という新しいサービスができた年でした。この九カ月、すべてが初めての経験であり、皆様のご協力を頂き、新年を迎えることができましたこと、心より感謝しております。昨年十二月には外部評価も経験し、シャロン・ド・それいゆの今後への課題も再確認できました。

職員一同、より良いシャロン・ド・それいゆにしていきたいと頑張っております。

今年は、運営推進委員会の活用と地域との交流、ボランティアの受け入れ等々、一つ一つを実現できるように努力していきたいと思っています。ご協力よろしく願います。

## 『小規模多機能型居宅介護のサービスについて』

- ・泊り・・・期限はありません。終末期受入可。
- ・通い・・・必要に応じて毎日可。朝のお迎えは八時～送りは七時まで。
- ・訪問

以上三種のサービスを提供することで在宅生活を支援します。

介護で心配なことなどがありましたらどうぞ、気兼ねなく相談・お問い合わせして下さい。



## デイサービスセンター

## れざみ

管理者 阿礼 由美香

新年明けましておめでとうございます。

おもてなしの心を大切に皆様に楽しい時間をお過ごし頂けるよう努めております。デイサービスセンターれざみには麻痺がある方や、認知症を患い全ての動作に指示が必要な方、ご自分の思いを言葉で表すことのできない方、様々な疾病をお持ちの方にご利用して頂いております。世の中には沢山の人がいて、様々な解釈方法があり、うれしい事・悲しい事・いらだたしい事は人それぞれ違います。

「人との出逢いは出逢うべくして出逢う事ができたのだ」と思っています。そんな出逢いを大切に利用者様をはじめ、懸命に介護をしておられるご家族様、関係者の方々にとって、今必要とする事は何かを見極め最善な手を差し伸べられるよう職員一丸となり努めて参ります。

これからの季節は、道路状況が悪く送迎の時間が遅れる事が予想されますので、ご了承くださいませ。今年もよろしく願います。



## 病児保育室

## プティそれいゆ

管理者 白田 陽子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

プティそれいゆは今年度、「全国病児保育協議会」に加盟させていただくこととなりました。

現在岐阜県内には二十五の病児・病後児保育施設があり、プティそれいゆは飛騨地区では唯一の病児保育施設です。全国規模の研修会や他施設との交流から保育看護を追求し、よりご利用満足度の高い施設にすべく精進いたします。

わが国には少子化や核家族化、待機児童など、子育てに係わる様々な課題がある中で、二十七年からは子ども子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援新制度」がスタートする予定です。

国の施策が変わっても子育て支援制度の根底にあるのは『子育ては一人でするものではない』ということ。高山市発行の、子育て便利帳の裏表紙にとってもいい文章があったのでご紹介します。

『困った時には、少し立ち止まって周囲を見回してください。』

隣を見れば、同じように子育てに取り組んでいる仲間たちが、前を見れば少し早くに子育てを経験されている先輩方が、そして周囲にはあたたかく見守り、力強く支える地域社会があります。

困った時に、ふと思い出してもらえるようになった時、病児保育室プティそれいゆは、やっと飛騨の地に根づいたと言えるのだと思います。

そんな日を目指し、今年も働く親御さんに寄り添いながら一歩ずつ前に進みます。どうぞよろしく願います。



# Dr.Orishine バイオメン

施設長 折茂 佑子

Dr.Orishine バイオメンにご入居の皆様、ご家族の皆様、関係各位の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は多大なるご支援を賜り誠にありがとうございました。本年も皆様にとって良い年となりますようご祈念申し上げます。



当施設も、開設して六年目となり皆様にも多様なご利用方法ができる施設として周知されて参りました。この特徴を生かしてご入居者様、ご利用者様が生きがいを感じて生活していただけるよう一人ひとりのご要望にできるだけお答えできるような努力して参りたいと思います。そのためにも、職員の専門知識の習得や技術の向上、接遇教育に力を入れて参りたいと思います。

今後も皆様のご支援を賜りながら更にサービスの質を向上させて、ご入居者様に喜ばれる仕事を目標に職員一同、業務に取り組んで参る所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ヘルパーステーションレザミ

管理者 澤浦 恒子

新年 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願います。

昨年二月一日に「ヘルパーステーションレザミ」が開設され、八月一日には株式会社レザミひだ が医療法人同仁会に移管され、はや十ヶ月。毎日がめまぐるしく過ぎていきました。訪問に伺わせていただいている入居者様の日々の変化に驚きを感じ、心に寄り添う介護ができることに喜びを感じています。

ベッド上で食事を取られ自力で摂取することもできなかった方が、今ではテーブルにて食事をされ、手引き歩行でトイレに行かれ、一般浴で入浴されるまでになりました。また、生活の環境に慣れることができず、毎日の生活に不安を覚え自分を抑えることができなくなり、心が苦しくていつも涙を流していらした方が、就寝前の三十分の間、ヘルパーが訪問し、ご利用者の不安な思いを傾聴し、共感し、心に寄り添うことにより不安が解消され、笑顔で毎日を過ごされるようになりました。このような喜ばしい結果を目の当たりにし、改めて心の介護の大切さを実感しています。しかし、こうした喜ばしい結果は私たちの心だけではないことを忘れないようにしたいと思います。訪問介護で利用者様が必要とするすべてを賄うことはできません。通所介護や福祉用具などほかの介護保険サービス、主治医や訪問看護などの医療職、それらの調整役であるケアマネージャー、介護保険以外のインフォーマルサービスなどの多くの人や資源が関わって支えているのです。

医療法人同仁会は、この多職種連携サービスが充実しています。なぜなら、多職種サービスが同一敷地内に存在するからです。

利用者様の細かい情報をどのように活かしていくか。利用者様の生活を再建できるチャンス、またひとつ下の段階に崩れ落ちてしまうかもしれない情報など、このような貴重な情報をすべての職種で共有し早めに手を打つことができます。このような環境の中で利用者様に適切なサービスを提供することができることを感謝して行きたいです。まだまだ勉強の毎日ですが、これからも明るい笑顔で利用者様に教えるをいたしながら日々精進してまいります。

## \* 編集 後記 \*

「新年明けましておめでとうございます」と、毎年同じ言葉で挨拶していますが、今年もこうやって皆様に挨拶できて本当に嬉しく感じています。

医療法人同仁会にレザミひだの事業が移管されてから早いもので五ヶ月が経ちました。先月行われました忘年会でも百三十人ほどの参加があり、初めてお会いする職員もいたり、久しぶりに会う職員もいました。新人紹介と、P2でもご紹介したように十年勤続表彰、各事業所による余興等で盛り上がり、笑顔で会話している場面や笑い声が聞こえてきても温かい雰囲気包まれていました。そんな職員たちも現場へ戻ると利用者様が毎日生活しやすいようにと環境を整えたり、思い出に残るレクリエーションを考えたりと相談や協力をし合っており、大変ですが、まだまだ至らない点もあります。お気づきの事や質問等がございましたらそれいゆ玄関に入って右側に設置してあります「ご意見箱」にてお受けしておりますので活用ください。それいゆをはじめ、事業所ごとにその人らしさ・その事業所らしい「お・も・て・な・し」で皆様をお迎えして参ります。今年一年、どうぞよろしくお願いたします。(坂上)